

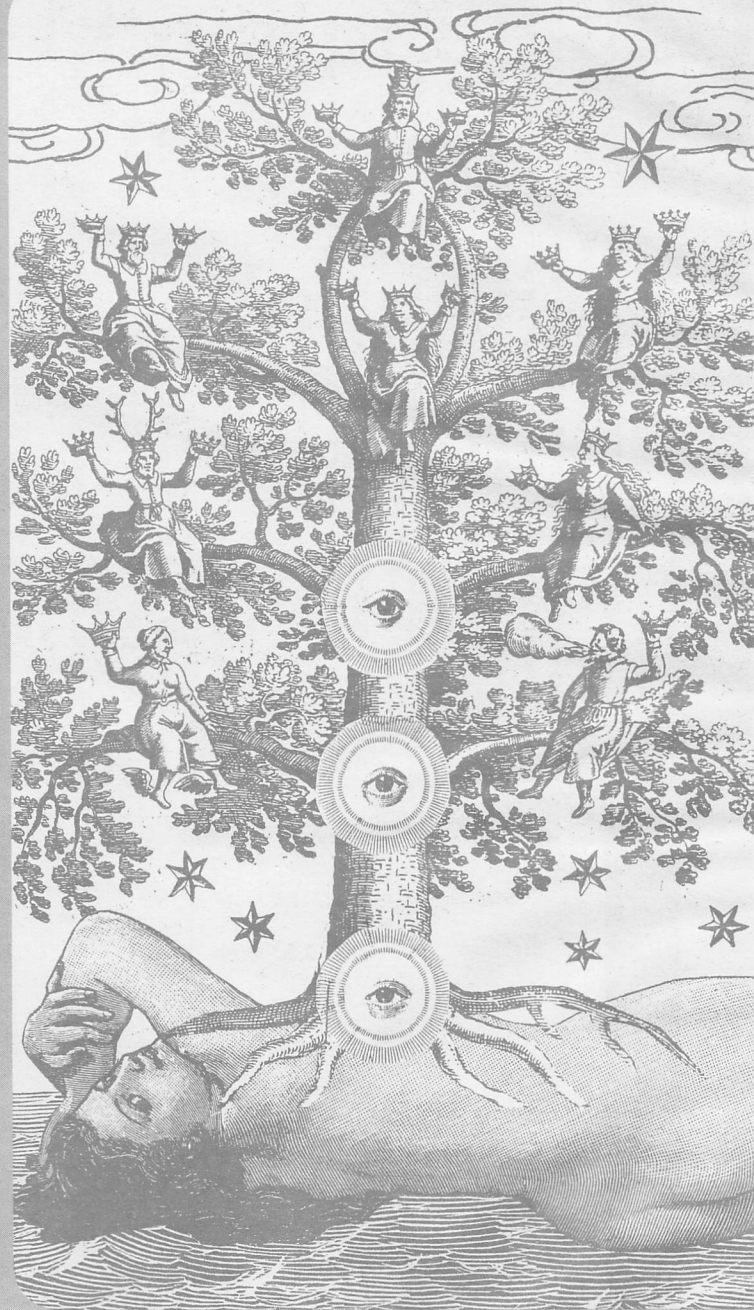
タロット前世占い 生まれ変わる前のあなたはこうだった！

実用スピリチュアル

文リマーヤラジャ

イラストレーション：たなかじゅんこ

あなたの眠れる記憶の中には、幾世代にもわたる過去の魂の旅路が、克明に刻みつけられています。それが、現世に生まれ変わる以前のすばらしい前世ストーリーです。これからタロットとセフィロトの樹を使い、あなたの前世ストーリーをシミュレーションしてみましよう！



完成したセフィロトの樹にタロットを組み込めば前世が見えてくる！

この世に生まれてきたすべての人は、その魂に秘められた記憶を持ってきます。その過去世での物語です。転生を繰り返す私たちの魂は、幾世代にもわたる膨大な生の記録をつづてきたのです。本当の自分を知らするために、そうした過去世を知りたい……。でもそれは可能なのでしょうか。

方法はあります。カバラの神秘図形、セフィロトの樹とタロットの導きを借りれば、だれでも自分の前世をかいま見ることができるとは可能です。

まずは付録の「セフィロトの樹リーディング・ボード」を切り取り、それを見てください。

通常、セフィロトの樹は10の球と22の径で構成されています。ところが、実は2つの隠された球があるのです。

ひとつは、地球を示すと考えられるマルクトの影にあります。地球の双子星とされる影なる地球「シャドー・太陽系第10番惑星」がそれです。もうひとつは、ケテルとティファレトを結んだ径の中間にある「ター・意識」です。

隠された2つの球が加わり12個の球がそつたとき、セフィロトの樹は初めて完成されるのです。

樹には多くの過去と未来が隠されています。完成されたセフィロトの樹の力を借り、12の球にタロットの象徴を組み込めば、あなたの前世を透視することが可能になります。それがこれから紹介する

前世リーディングです。

●前世リーディングの方法

①付録のタロットを切り離し、裏返しにしてシャッフルします。時計方向に7回まわしてください。次に、カードをそろえて手に持ち、同じく7回カットします(図①)。

なお、以上のシャッフル、カットのときは、自分の過去を思い返すように意識を集中し、雑念にとらわれないようにしてください。

②次にセフィロトの樹リーディング・ボードの長方形の枠内に、カードを置いていきます。カードは裏返しのまま、山の上から一枚ずつ取り、樹の球内に書かれた番号順に置いていきます(図②)。

③12枚のカードが配置されたら準備完了。いよいよ前世を見るときがきました。ボード上に置いたカードの上(右)に番号が見えます。

その順にカードを開いていくと、▽前世の時代、▽生まれた国、▽生まれた目的……と、あなたの前世がひとつのストーリーになって展開されるのです。

たとえば一番目に開くカードはピナーの位置に置かれたものです。ピナーは前世の「時代」を象徴する球。そこにはどのカードが配置されたかが、105ページの解説を読めば、あなたの前世の時代がわかるというわけですね。

同じようにして、番号順にカードを開いていくと、生まれてから死ぬまで、前世でのあなたのすべて

てがわかります。

なお、各球が象徴するものは下の表を参照してください。

●魂の結婚

タロット前世占いは、一度だけのものではありません。あなたが何かに悩み、前世の生き方から方向性を得たいと思ったときなど、何度でもできます。

こうして繰り返し前世を占っていると、カードは22枚しかないのですから、当然、時代が重なる場合も出てきます。これはどう解釈したらいいのでしょうか。

私たちは、魂の結婚と見ています。この世での魂は、人として生まれ、成長し、結婚します。同じように、霊界でも、次なる人生での成長目的が同じであったり、愛情の高まりを感じたときなどは、魂同士が融合するのです。

そしてさらなる成長のために、融合したままこの世に誕生することがあります。あなたの中に、もうひとつのあなたがいる、といえるでしょう。

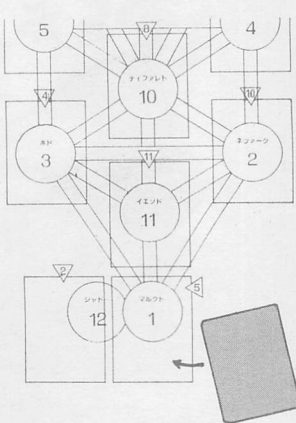
セフィロトの樹にカードを展開したとき、同じ年代が現れたら、魂の結婚で得たもうひとつの人生(複数の場合もあります)であることを思いだしてください。

このように、多くの前世ストーリーをシミュレーションすることで、あなたは霊的な成長のきっかけをつかめるはずです。あなたの魂の向上を祈っています。

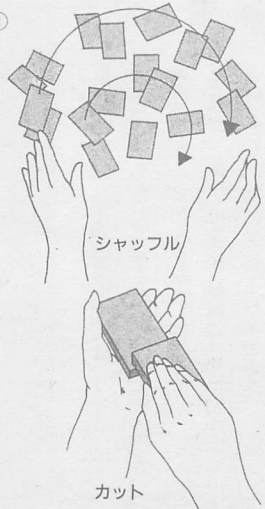
●各球(セフィラ)の樹の象徴

球(セフィラ)	象徴するもの
1 マルクト	性格および容姿
2 ネットアーク	金銭や財産(独立後)
3 ホド	両親や家庭の状況
4 ケセド	仕事
5 ゲブラー	友人関係(成長後)
6 コクマー	健康
7 ピナー	前世の時代
8 ケテル	生まれた目的
9 ダート	カルマ
10 ティファレト	恋愛と結婚
11 イエソド	死とその原因
12 シャドー	生まれた国

図②



図①



●注意 タロットは正位置か逆位置かで意味が異なります。解説文で「▽」の記号から先は逆位置の意味になります。

1 前世の時代

- I 「魔術師」約1000年前を示す。明治時代。日清戦争。第一回近代オリンピック。大会開催。
- II 「女司祭長」約2000年前を示す。江戸時代。フランス革命。テルミドール9日の反革命。
- III 「女帝」約3000年前を示す。元禄時代。四十七士の仇討ち。東欧・北欧で北方戦争。
- IV 「皇帝」約4000年前を示す。安土桃山時代。関ヶ原の戦い。ブルボン朝。ガリレオの落体実験。
- V 「法王」約5000年前を示す。室町時代中期。イギリスのはら戦争終結。コロンブスの新大陸到達。
- VI 「恋人」約6000年前を示す。南北朝時代。イギリスのランカスター朝。教会の大分裂。
- VII 「戦車」約7000年前を示す。鎌倉時代後期。オスマン帝国成立。マールコ・ポーロの見聞録完成。
- VIII 「力」約8000年前を示す。鎌倉時代初期。第3回・4回十字軍。北インド統一。
- IX 「隠者」約9000年前を示す。平安時代後期。第一回十字軍。イギリスの封建制度完成。
- X 「運命の輪」約10000年前を示す。平安時代中期。藤原氏全盛期。ロシアにギリシア正教伝わる。
- XI 「正義」約11000年前を示す。平安時代。遣唐使を廃止。北アジアでは北方民族が活動中。
- XII 「吊るし人」約12000年前を示す。平安時代初期。富士山噴火。ヨーロッパに封建制度が発達。

*タロットの正位置・逆位置の区別はありません。22000年前までの時代が占えます。

- XIII 「死神」約13000年前を示す。奈良・飛鳥時代の境目。藤原京に遷都。イスラム帝国の繁栄。
- XIV 「節制」約14000年前を示す。飛鳥時代初期。聖徳太子の摂政。隋の中国統一。グレゴリウス1世。
- XV 「悪魔」約15000年前を示す。大和時代中期。仏教伝来。西アジアのササン朝最盛期。
- XVI 「塔」約16000年前を示す。大和時代。朝鮮出兵。ローマ帝国の東西分裂。中国貴族文化の繁栄。
- XVII 「星」約17000年前を示す。大和・弥生時代の境目。ローマ軍とベルシア軍が交戦。キリスト教徒迫害。
- XVIII 「月」約18000年前を示す。弥生時代。中国で赤壁の戦い。新約聖書が現在の形をとる。
- XIX 「太陽」約19000年前を示す。弥生時代。倭国。後漢に使節を派遣。ローマ帝国が栄える。
- XX 「審判」約20000年前を示す。弥生時代。キリスト誕生。中国に仏教伝来。
- XXI 「世界」約21000年前を示す。弥生・縄文時代の境目。水田耕作。ローマの地中海地域への発展。
- O 「愚者」時代の設定はかなり古く、断言することはできないが、約22000年以上前だと考えられる。



2 生まれた国

- I 「魔術師」極東アジア。日本列島や朝鮮半島など。▼離島に生まれた可能性が高い。
- II 「女司祭長」西ヨーロッパ。イギリス・フランス・スペイン・ポルトガルなど。
- III 「女帝」東アフリカ。エジプト・ Sudan。エチオピアなど。▼ナイル河畔の可能性が高い。
- IV 「皇帝」北ヨーロッパ。アイスランド・ノルウェー・スウェーデンなど。▼白夜の国の可能性が高い。
- V 「法王」東ヨーロッパ。ルーマニア・旧ユーゴスラビア・ブルガリア・チェコなど。
- VI 「恋人」南ヨーロッパ。ギリシア・イタリアなど。▼地中海に浮かぶ島の可能性が高い。
- VII 「戦車」北アメリカ南部。現在のアメリカが中心。▼大西洋上に浮かぶ諸島の可能性が高い。
- VIII 「力」南アジア。インドを中心にスリランカ・パングラデシュ・ネパールなど。▼山岳地帯の可能性。
- IX 「隠者」南アメリカ西部。ペルーやチリなどアンデス山脈沿いの国々。▼険しい高地の可能性が高い。
- X 「運命の輪」北アメリカ北部。カナダから北側の一帯。▼極地方の可能性が高い。
- XI 「正義」旧ソ連邦。ロシアを中心にウクライナやウスベキスタンなど。▼極寒地帯の可能性。
- XII 「吊るし人」南アフリカ。ナミビア・南アフリカ共和国・ボツワナ・モザンビークなど。

- XIII 「死神」オセアニア方面。オーストラリアやニューギニアランド(南西太平洋の諸島は除く)。
- XIV 「節制」東アジア。中国やモンゴルなど。▼砂漠などの過酷な地域の可能性が高い。
- XV 「悪魔」南アメリカ東部。ブラジルやパラグアイ・ウルグアイなど。▼密林地帯の可能性が高い。
- XVI 「塔」西アジア。イラン・イラク・サウジアラビア・トルコ・レバノンなど。▼砂漠地帯の可能性。
- XVII 「星」北西アフリカ。モロッコ・アルジェリア・リビア・チュニジア・マリ・モーリタニアなど。
- XVIII 「月」南西太平洋諸島。ニューギニア島やカロリン諸島から、サモア、フィジーなどの諸島。
- XIX 「太陽」中央アメリカ。メキシコ・コロンビア・パナマ・ベネズエラ・ニカラガなど。
- XX 「審判」東南アジア。タイ・ベトナム・カンボジア・フィリピン・マレーシア・インドネシアなど。
- XXI 「世界」西アフリカ。ギニア湾岸のセネガル・ギニア・コートジボワール・ガーナ・ナイジェリアなど。
- O 「愚者」特殊なカードで、特定の国ではなく、生まれた時代がいちばん繁栄していた国を示す。



*逆位置の解説があるカードは、その条件を加味して判断してください。

3 生まれた目的

※前世における、あなた
の魂の目的を知ることが
できます。

I 「魔術師」神秘的な物事を知り、学び、口伝する。人々が理解できない世界を研究し、伝えるために生まれた。▼物質的な物事を知り、学び、記録する。人々の住みやすい世界を研究し、知恵を残すために生まれた。

II 「女司祭長」神仏につかえ、その教えを人々に伝えていく。人間の生きる目的や魂のあり方を語り、伝えるために生まれた。▼神仏を研究し、その教えを賢者から聞く。人間の生きる目的や魂のあり方を悟るために生まれた。

III 「女帝」子供と直接、触れ合い、子供を育てたり教育を施すなど、幼い命を保護し、導くために生まれた。▼子供を産んで育てる者のために教育を施し、側面から援助するなど、協力者となるために生まれた。

IV 「皇帝」現実世界での地位や名誉を求め、物質的にも金銭的にも多くものを得たりと思ひ、成功するために生まれた。▼他者のために地位や名誉を求め、与えるために生まれた。物質的にも金銭的にも助けるために。

V 「法王」精神的な成長を学び、冠婚葬祭をとりしきりたり人々の悩みを聞くなど、神々に仕えたり信仰するために生まれた。▼現実的な成長を学ぶ、社会的な問題をとりまどめたり、国や社会を導くために生まれた。

VI 「恋人」出会ふべき運命の相手と人生をともに歩むために生まれた。▼同性か異性かは定かでないが、共同生命体的な存在を捜すための誕生である。▼自分にとって本当の愛を捜し、愛とは何かを学ぶために生まれた。

VII 「戦軍」自分や他人のため、国のためなど、守るものを持ち、戦うために生まれた。▼矛盾を知るためでもある。▼肉体的に戦つてではなく、精神的に強くなることを学び、伝えるために生まれた。魂の戦いが目的である。

VIII 「力」授けられた肉体を精神とともに鍛えあげ、さらなる向上心を養うために生まれた。▼抑圧や苦難を乗り越え、肉体的な苦しさ、あるいは現実の力関係を経験するために生まれた。苦しみを通して成長するためである。

IX 「隠者」それまでの時代に築かれてきた伝統や、より古い時代のもの、あるいは伝説などから知識を得るために生まれた。▼宗教や魔術、あるいはその時代の科学などによって、未知なるものを解明するために生まれた。

X 「運命の輪」人や動物、植物など、すべての命とは何かを考え、学び、育てるために生まれた。命の大切さを教えるために。▼人との出会い、縁、物事の流れなど、運命的と思えるつながりを考え、学び、パランスを知るため。

XI 「正義」悪しき行いをなす者に対し、説得して正しい道へ導き、人生を間違つて生きたいように教えるために生まれた。▼多くの人々に対し、正しい道や人間性、命のあり方など、生きるとはどういうことを語るために。

XII 「苦」苦しみや悲しみを知り、それを乗り越えて精神を鍛えるために生まれた。より成長するため。▼人の苦しみや困難を知り、それを克服した精神を理解するために生まれた。多くの隣人から悩みを消し去るために。



XIII 「死神」命のあり方やはかなさを学ぶために、人間だけでなく、動物や植物など多くの生死を知り、教えるために生まれた。▼人間だけでなく、動物や植物など多くの生死を目にとめ、命の大切さを知るために生まれた。

XIV 「節制」他者から多くの問題を受け、忍耐力を養うために生まれた。精神的なものだけでなく、肉体的なものも含まれる。▼他者に多くの問題を投げかけ（こくに精神的なもの、忍耐力和決断力を与えるために生まれた。

XV 「悪魔」人間に悪をなす生命体や霊体などについて考え、学ぶために生まれた。また、人々を悪しき流れから守るために。▼霊的な存在と交流し、その意志を人々に伝え、霊的な苦痛から解放させるために生まれた。

XVI 「悟」つくりあげられたものを壊したりムダにすることを体験し、悩み考え、破壊の悲しみを知らるために生まれた。▼とてもできないと思えるようなものをコツコツとつくりあげ、人に努力を学ぶために生まれた。

XVII 「星」人間として生きているとき、希望を持つために生まれた。人生において希望を持つということの意味を学ぶためである。▼勇気や憧れを抱かせる話を語り、多くの人に希望を与え、子供などには夢を与えるために生まれた。

XVIII 「月」不安・恐れ・悲しみ・憎しみなど、暗く苦しいことを経験し、そのうえで本当のやさしさを探するために生まれた。▼本当の苦しみを知らせるため、不安・恐れ・悲しみ・憎しみなど、暗く苦しい経験を人に与える。

XIX 「太陽」本当の強さを知るため、心身ともに強くあること、自身に厳しく耐えることを学ぶために生まれた。▼多くの幼き生命とめぐり合い、育てるために生まれた。命の大切さや弱さ、強さを学び、伝えるために。

XX 「審判」苦しみがき、上下関係を学ぶ。社会や他人に押さえつけられる不自由さを知るために生まれた。▼社会が孤立し、孤独を知るために生まれた。本当の孤独やさびしさを知り、学び、他者に手を貸すために。

XXI 「世界」数多くの命と出会い、人間の縁やつながりを学び、駆け引きを知るために生まれた。温かさや孤独を考える。▼多くの国を旅し、社会的変化を学ぶために生まれた。国や人間生活などを人々に知らせる。

O 「愚者」自由であること。肉体だけでなく精神的にも気ままに束縛されない喜びを知るために生まれた。▼だれよりも愚かであることや、不自由であることを知り、経験するために生まれた。向上心を養うためである。

4 両親・家庭

※子供のこの家庭環境について知ることが出来ます。自分なりにイメージを、ふくらませて下さい。

- I** 「魔術師」家族にはあまり恵まれて
 います。仲たがいや衝突することが
 多かったです。兄弟姉妹は多くいたと
 考えられる。▼兄弟姉妹は多く仲もよか
 ったが、両親との間に問題があったと考
 えられる。厳しく育てられたようだ。
- II** 「女司祭長」幼少期に両親を亡くし
 たが、離別したと考えられる。血
 縁者の存在は不明で、孤独のなか
 で育っている。▼経済的には恵まれなかつ
 たらが、温かい両親のようだ。一定の場
 所に落ち着かず、旅のなかで成長した。
- III** 「女帝」母親の影響が非常に強く、
 母子家庭といつことも考えられる。
 血縁者も女性が多く、甘く育てら
 れた。▼平均的な家庭に生まれたが、強
 い性格の女性の影響があったと考えられ
 る。血縁者以外に厳しく育てられた。
- IV** 「皇帝」父親の影響が非常に強く、
 父子家庭の場合も考えられる。血
 縁者も男性が多く、厳しく育てら
 れた。▼平均的な家庭に生まれたが、弱
 い性格の男性の影響があったと考えられ
 る。血縁者以外に甘く育てられた。
- V** 「女王」幼年期に両親や血縁者と意
 図的に離れ、社会的教育を施さ
 れた。血縁者とは全くことを許さ
 れない状況だったと考えられる。▼経済
 的には恵まれていたが、冷たい両親のも
 と、成長するまで厳しく育てられた。
- VI** 「恋人」両親や兄弟姉妹に恵まれ、
 「愛情豊かに育てられたと考えられ
 る。安定した環境で平均的な暮らし
 してある。▼両親や兄弟姉妹には恵まれ
 なかったが、愛情豊かな血縁者に育てら
 れ、成長したと考えられる。
- VII** 「戦車」両親には恵まれたが、定住
 することがなく、旅のなかで成長
 した。▼兄弟姉妹には恵まれなかつ
 た。▼幼少期に両親と死別しないしは離別
 し、他人のなかで育ったと考えられる。
 同じ境遇の仲間と旅のなかで成長した。
- VIII** 「刀」家族のきずなは強く、両親は
 やさしい人だが、しつけには厳し
 かった。兄弟姉妹はいなかったが
 恵まれた環境に育った。▼両親は厳しく
 教育者の必要素が強かった。家庭では
 なく、冷たいと感じるほどだった。
- IX** 「隠者」幼年期に両親と離され、隠
 されて育てられた。環境は厳しく
 辛い生活のなかで成長したと考え
 られる。▼両親、兄弟姉妹とともに、世
 間から隠れて成長している。環境には恵
 まれなかったが、温かい愛情を受けた。
- X** 「運命の輪盤」温かい愛情あふれる両親
 に育てられたが、成長の途中、
 すべてが逆転し、孤独な環境に陥
 ったとみられる。▼経済的には恵まれた
 が、両親のしつけは厳しく、兄弟姉妹と
 の競争も激しかったと考えられる。
- XI** 「正義」両親・兄弟姉妹・血縁者な
 どすべてに恵まれ、愛情を受けて
 育ったと考えられる。成長のため
 の環境もよかつた。▼両親・家族には恵
 まれなかったが、温かく成長を助けてく
 れる養父母を得ることができた。
- XII** 「巨るし」環境には恵まれ、両親
 は甘いと感じられるほどにやさし
 かった。ひとりっ子の要因が強く
 過保護に育てられた。▼平均的な家庭で
 両親もやさしかった。過保護ではないが
 少々、甘く育てられたようだ。

- XIII** 「死神」両親を知らずに育ったと考
 えられる。冷たく感じる血縁者の
 もとをたらい回しにされながら成
 長した。▼両親・兄弟姉妹ともに、他
 人の庇護を受けながら育ったと考えられ
 る。環境は悪く、辛く厳しかった。
- XIV** 「節制」両親・兄弟姉妹に恵まれ、
 平均的な家庭に育ったと考えられ
 る。しかし経済環境は厳しく、我
 慢することが多かった。▼両親や環境に
 恵まれ、多くの擁護者を得て幸福に成長
 した。ひとりっ子で甘やかされていた。
- XV** 「悪魔」理由は定かではないが、両親
 は義理の関係だったと考えられ
 る。生活は豊かだが、愛情に欠け
 ていた。▼経済的には恵まれていたが義
 理の兄弟姉妹が多く、母親がいなかった
 と考えられ、競争的な生活を強いられた。
- XVI** 「怪」平均的で安定した家族関係だ
 ったが、一瞬にして失うこととな
 った。成長過程で辛く孤独な状態
 を経験した。▼幼年期は孤独で厳しい家
 庭環境だったが、時間とともに理解し合
 うことができた、温かな家庭になつた。
- XVII** 「罪」環境にも家族にも恵まれた幼
 少期を過ごすか、両親と死別する
 ことになる。元姉が親代わりとな
 って育てられた。▼家族に恵まれず、幼
 少期から他人のなかで育った。厳しく辛
 く、精神的に孤独なことが多かった。
- XVIII** 「巨」両親・兄弟姉妹に恵まれ、大
 切に育てられたが、経済的には恵
 まれず、いつも不安と戦いながら
 成長した。▼経済的には恵まれ、大切に
 育てられたが、家族・血縁者には恵まれ
 ず、他人のなかで成長したと考えられる。
- XIX** 「太陽」家族に恵まれ、旅をしながら
 成長したと考えられる。明るく
 温かい両親や兄弟姉妹だった。兄
 姉が多かった。▼幼少期から親を助ける
 暮らしだった。生活は厳しく辛いものだ
 ったが、家族のきずなは固かつた。
- XX** 「審判」やさしい両親に、甘いと感じ
 られるほど大切に育てられたが
 成長途上で他人の手にあずけられ
 たと考えられる。▼環境に恵まれ、両親
 もやさしかった。温かくも厳しい教育を
 受け、成長したと考えられる。
- XXI** 「世界」厳しくて冷たい両親を持つ
 たが、兄弟姉妹がよく面倒をみて
 くれ、親代わりになつてくれた。
- O** ▼両親には恵まれていたが、やさ
 しい血縁者に育てられた。経済的には貧
 しい生活だったが温かい家庭であつた。
 「悪者」幼少期より他人のなかで育
 ったと考えられる。やさしく育て
 られたが、経済的には苦しい暮らし
 だった。▼両親はいたが、なぜか他人
 のように育てられた。兄弟姉妹もいたが
 冷たい関係で、愛情の少ない家庭だった。



5 性格・容姿

※ここの性格や容姿は成人後のものです。逆位置のカードが出た場合は▼以降の解説を読むことに注意。

I 魔術師 さまじめで努力家。何事に対しても素直でストレートな考え方をするタイプ。落ち着いた印象が強い。おとなしく、もの静かであったと考えられる。性別は男性。細身で背が高く、どちらかというと優男タイプ。

▼世渡り上手で、方便家。自分を大切に、他者とのつき合いは楽天的な奔放タイプ。目立ちたがり屋で自己中心的な面が強い。性別は男性。中肉中背かやや大柄。活動的にぎやかな印象を与える人物であったと考えられる。

II 文司祭長 素直で正直、勤勉家。人に対しては世話好きで、向上心豊かなタイプ。自分自身の成長のためのチャレンジ精神が強い。しっかり者であったと考えられる。性別は女性。細身で背も高く、スタイルは抜群。

▼もの静かで無口。必要以上のことは手を出さず、自他ともにシビアな面を持つタイプ。冷静で、一見、冷たく思えるようなところもある。文系の思考タイプであったと考えられる。性別は女性。中肉中背だが、小柄な印象を与える。

III 女おしやべりでにぎやか。うわさ話好きな楽天主人タイプ。活発で行動力があり、大変な世話好き。おせっかいな面が強い。性別は女性。背は低く豊満で、全体的に丸い感じをたたやわせた女性である。

▼無口だが、うわさ話が好き。派手好みが完璧主義的な要素が強い。自分には甘い他人には厳しい面を持つタイプ。物質に執着することも多い。物質思考タイプであったと考えられる。性別は女性。ためて背は低く、派手な雰囲気のある女性。

IV 皇帝 頑固で口うるさい。しきたりや伝統を重視し、曲がったことを嫌う面が強い。自他ともに厳しく、正直なタイプ。精神的な事柄や人とのつき合いを大切にす。性別は男性。中肉だがやや背が高く、筋肉質。

▼無口で頑固。自分の立場や生活を大切に、同時に周囲の目を気にする見栄っぱりタイプ。他者には厳しいところがあるが、自分には甘い物質思考タイプだったと考えられる。性別は男性。ためて丸く、背も低い。非常に肉づきのよい人物。

V 法王のんびり屋で楽天的。物事を深く考え悩むことの少ないタイプ。自他ともにやさしく、寛大な人物。涙もろくて世話好きで、お人好しであったと考えられる。性別は男性。細身だが骨格はしっかりして背も高い。

▼気むすかしく、悩みやすい。何事に対しても深く追求したがるタイプ。他人はごつてあれ、自分の気のすむまで考え込み、研究したがる科学者系であったと考えられる。性別は男性。細身で背は平均的。か弱そうな印象を与える人物。

VI 悪人やさしく献身的。自分より他人のことを先に考え、つくしていくタイプ。自分はどうであれ助けを求められれば断りきれず、最後までつき合ってしまったと考えられる。性別は女性。中肉中背の平均的な人物。

▼華やかで活発。新しいことには敏感で、その時代の最先端をいくタイプ。見栄っぱりで我が強い。自他ともに認めるような美しい外見と、生活の充実感を求める人物。性別は女性。背は高く、華やかで人目をひきつけるようなところがある。

VII 戦車 非常に我が強く、強引。思ったことはすぐに実行するような気の短い面を持つ。何事もはつきり白黒を分けないと、我慢できないタイプだと考えられる。性別は男性。骨格がしっかりし、ややためて背は低い。

▼引つ込み思想で気が弱い。自己主張が苦手な集団生活をするタイプ。気が短い一面もあるにはあるが、どちらかというところ、何事に対してははっきりとした印象を与えたと考えられる。性別は女性。かなり細めで背も高い瘦せた人物。

VIII 力 頑固で口うるさく、強引。しきたりや伝統などを重視し、曲がったことを嫌う面が強い。自他ともに厳しく、正直なタイプ。精神的な事柄や人とのつき合いを大切にす。性別は女性。中肉中背でスポーティ。

▼楽天的で物事を深く考えず、細かいことを気にしない。思考より行動が先に立つタイプ。闘争的な面が強い。人の先頭に立つてバリバリやるのが好きなパワーマン。性別は男性。筋肉質でたくましく、骨格のしっかりした肉派。

IX 隠者 無口で暗く、もの静かなタイプ。活動的ではなく、他人の目を非常に気にする。神経質な面が強い。思考タイプで常に細かいことを考えていた。性別は男性。背は低く細身で、しつこい人物という印象を与える。

▼自己中心的な面が強く、他者との共存を望まない孤独なタイプ。少々、強引な面があるが、意志強固で、中途半端なことを嫌う人物であったと考えられる。どちらかといえ物質的な思考タイプ。性別は女性。かなりためて背は平均的。

X 運命の輪 にぎやかでおしやべり。うわさ好きで非常に楽天的な活動家タイプ。大変な世話好きで行動力に恵まれている。少々、おせっかいな面が強い。性別は男性。背は低く、ためて、全体的にとても丸々とした人物。

▼自分よりも他人を大切にすし、やさしく献身的なつきし屋タイプ。人から助けを求められると断りきれず、最後までつき合ってしまう面が強く、だからからも好人物だと思われるような存在だった。性別は男性。中肉中背のこく平均的な容姿。

XI 正義 努力家で気まじめ。物事を素直に考える思考タイプ。何事に対してもストレートに対処し、落ち着いた面が強い。おとなしく、もの静かな人物であったと考えられる。性別は女性。細身で背が高く、スマートな人物。

▼勤勉で正直。素直な性格で世話好きなタイプ。向上心が豊かで、自分の成長のため、いろいろな物事にチャレンジする精神が強い。かなりしっかりした人物だったと考えられる。性別は男性。細身で背も高く、インテリの印象を与える。





▼のんびり屋で楽天的。細かいことは気にせず、その場を大切にするタイプ。自由気ままで自分の快適さのみを追いかけられる面が強い。問題が起ころても、あたりさわりなくすましてしまおう。性別は女性。やや太めでふくよかな感じを与える。

XII 「閉るし」自分の立場や生活を大切にし、周囲の目はそんなに気にしないタイプ。無口で頑固。他人や社会に執着はなく、自分に甘い物質思考タイプだったと考えられる。性別は女性。太めで丸く、肉つきのよい人物。
▼悩みやすく、愚痴っぽい。神経質で中途半端なタイプ。集団生活を好むが、やや自分勝手に集中力が無い。周囲の人には神経質な印象を与え、精神面のバランスが悪かったと考えられる。性別は男性。細めだが、背は平均的な人物。

XIII 「死神」細かい性格で、はつきりしないことを嫌う。集団生活が苦手なタイプ。
▼悩みやすく、考え込むタイプ。自分の立場を重視し、時として隠し事をする人物。性別は女性。細身で背は低く、骨っぽい外見だったと思われ。▼のんびり屋で楽天的。細かいことは気にせず、その場を大切にするタイプ。自由気ままで自分の快適さのみを追いかけられる面が強い。問題が起ころても、あたりさわりなくすましてしまおう。性別は女性。やや太めでふくよかな感じを与える。

XIV 「節制」楽天的でのんびり屋。自他ともにやさしく、寛大な感情型。物事を深く考えて悩むことのないタイプ。涙もろくて世話好きで、大変なお人好しだったと考えられる。性別は女性。グラマーで背も高い。
▼気が短くてせっかち。しぐさに落ち着きがなく、自分勝手なタイプ。協調性が欠けていて、中途半端な面がある。気分の浮き沈みが激しい人物であったと考えられる。性別は男性。背は低く細身だが、筋肉はしっかりしていた。

XV 「悪魔」悩みやすいタイプ。集団生活を嫌い、他人をねたまやすい面を持っていた。自分から行動することは少なく、自己の安定のみを望む人物であったと考えられる。性別は男性。背が高く、骨格のしっかりした人物。
▼日たれでおしやべり。物事を大きく話すタイプ。強引で意地っぱり、見栄っぱりな面も強い。やきもちやきでしつこく、融通のきかない人物であったと考えられる。性別は女性。背が高く、骨ばってふくよかさの少ない肉体だった。

XVI 「怪短気」頑固。口うるさく、集団生活を嫌い、独断的なタイプ。大ざっぱでは飽きっぽいのが、考えたことは実行せばはいられないせっかちな面も持つ。性別は男性。背は平均的だが、やや太めで大柄な印象の人物。
▼引込み思案で内気。甘たれで非行動的なタイプ。照れ屋でやさしいが、悩みやすく涙もろい面が強い。少々、優柔不断で、責任感のない人物だった。性別は女性。背は低くやや太めだが、それがグラマーなイメージを与える肉体だった。

XVII 「星」落ち着いていて、さみしがり屋。悩みやすく、やや不安定なタイプ。引込み思案で、涙もろい面がある。自他ともに甘く、厳しさに欠けていたと考えられる。性別は男性。中肉中背の平均的な容姿だった。
▼落ち着きがなく、短気でせっかち。自分勝手なタイプ。中途半端で協調性に欠け、気分のにも浮き沈みの激しい面を持つ。好き嫌いははっきりした人物。性別は女性。背は低く、細身でボーイッシュな肉体だったと考えられる。

XVIII 「巨」無口で、必要以上のことは手だしをせず、もの静かでシブな面を持つタイプ。冷静で、場合によっては冷たく見える印象を周囲に与えた。性別は女性。中肉中背だが、少々骨ばってきつく見える。
▼おしやべりでおせっかい。気が大きく甘たれた面が強い。意地っぱりで見栄っぱり、強引なタイプ。しつこく融通がきかないうえ、嫉妬に駆られるタイプだったと考えられる。性別は女性。背が高く、骨太な感じの肉体を持った人物。

XIX 「太陽」努力家でさまじめ、ストリートな性格で落ち着いたタイプ。何事も素直に考える人物。細かいことを考えるのが好き。行動は物となしく、もの静かな性格だったと考えられる。性別は男性。太めで丸く、背は低い。
▼明るくてしつかり者。世話好きで向上心があり、好き嫌いははっきりしていた。努力家得我強い人物だったと考えられる。リーダー的な資質の持ち主でもあった。性別は男性。大柄で筋肉質。背も高くスポーツマンタイプ。

XX 「審判」世渡り上手で口が達者。他人とのつき合いは楽天的で、自分を大切にすタイプ。自立したがり屋で自己中心的な面が強い。自由奔放タイプと考えられる。性別は女性。中肉で背は少し高め。活動的な人物。
▼無口で世渡りが下手だった。神経質で悩みやすく、引込み思案なタイプ。自他ともに大切にするやさしさを持つが、優柔不断な面が強い。周囲の流れに負けやすい性格だったと考えられる。性別は女性。大柄で背も高い。

XXI 「世界」新しいことには目がなく、情報通で、その時代の最先端をいく行動派。博愛主義的な精神が強く、我も強い。華やかで自由気ままな面を持つ。自分の生活の充実を何より重視した。性別は女性。中肉中背。
▼常に前向きな思考を心がけ、向上心が豊かで我慢強いタイプ。負けず嫌いで頑固な一面を持つ。他者にはやさしいが、自己には非常に厳しい人物であったと考えられる。性別は女性。豊満で肉つきがよく、背も高かった。

O 「愚者」楽天的で冗談好きな、ひょうきんタイプ。自分の気持ちを隠しても他人を笑わせようとする。表向きとは逆に、さみしがり屋で我慢強い面も持つ。性別は男性。背は低く、肉つきのよい丸い感じの人物。
▼大ざっぱで、気まま。世間的なことに興味がなく、のんきなタイプ。悩むことも少なく、流れるままに生活を送る面を持っていた。自由な精神を持ち、臨機応変のきく人物だったと考えられる。性別は男性。中肉中背の平均的な肉体。



6 友人関係

*ここでの解説も前と同じく成人後のものです。現世の友人関係と比較してみるのもおもしろいでしょう。

I 【魔術師】小さなことまで話し合える友人が多かった。しかし、長続きせず、一時の友人で終わってしまうことが多かった。▼数多くの友人を持ち、長きにわたって友情を確かめ合うことができ、年を重ねてつき合った。

II 【女司祭長】学問を語り合う女性の友人が多かったが、私的なことを話せる人は少なく、表面的なつき合いだった。▼友だちの中心は女性で、神秘的な事柄を語り合う友人が多かった。私的なことよりも霊的な話題が主だった。

III 【女帝】語り合える友人はたくさんおり、引越しても交流が続くような、家族的関係であったと考えられる。▼友人の数は少なく、本音でつき合える友人はいなかった。その少ない友人も年を追うごとに離れていった。

IV 【黒帯】本人から見れば友人と呼べる人は多くいたが、義理や立場上のつき合いだった。入れ代わりも激しかった。▼孤独のなかにあり、友人と呼べる者はいなかった。一時の話し相手はいたが、親友はいない状況だった。

V 【王女】社会的なことや文学的なことを語り合う友人はいたが、私的な理解者には恵まれず、孤独であった。▼周囲からは友人に恵まれていてと考えられていたが、本人は孤独で、理解者がいないと感じていた。

VI 【悪人】異性の友人が多く、さっぱりとした関係が長く続いた。孤独になることはなかったが、同性にねたまれた。▼同年代よりも年下の友人が多く、とくに小さな子供にしたわれたと考えられる。親友にも恵まれた。

VII 【戦車】本人は友人と考えたが、強引に他者を縛りつけていた。従う者は多く、本当の理解者はいなかった。▼わがままな友人を持ち、自分の意思とは関係なく引き回されたと考えられる。同じ境遇の友人がいた。

VIII 【力】かなり強引な友人がいたと考えられ、自分の意思に関係なくつき合わねばならず、ほかの友人とのつき合いは許されなかった。▼集団でつき合った友人がいたが、よい友人とはいえず、意思に関係なく従わされた。

IX 【隠者】友人はいたが、その関係を他者に語ることはなく、隠された間柄であった。充実していたが、孤独に見えた。▼少なくもな多くもない、平均的な友人の数であった。親友もいたが人に隠さねばならない存在だった。

X 【運命の輪】非常に多くの友人を持つたと考えられる。一定の土地の者だけでなく、旅先などでも得られ、長くつき合えた。▼友人の数は少なく、遠く離れたところにいた。身近な友人はおらず、さみしい思いをした。

XI 【正義】社会的なことや道徳に関して話し合える友人を持っていた。私的なことを語ることもでき、親友であった。▼友人は少なかったが、信頼し合える親友をひとり持っていた。年老いても変わらぬ関係を保つ仲だった。

XII 【母】友人は少なく、他者との間に友情がめばえても、短期間で消滅した。一方的に拒絶されたことが多く、友人はいなかった。孤独ではあったが、表に出すことはなかった。

XIII 【死神】語り合える友人は少なく、出会っては別れたと考えられる。一時のつき合いで終わることが多かった。▼友人は少なく、個性の強い人たちだった。むしろ、人間の友人よりも、霊的な存在と語り合うことが多かった。

XIV 【節制】友人は多く、語り合うことも多かったが、表面的なつき合いであった可能性が高い。本音でつき合える者は少なく、友人も多かった。本音で語り合える親友もおり、ケンカ友だちもいた。同年代が多かった。

XV 【悪魔】社会的に隠しておくが、嫌われた友人がいた。閉鎖的な友人関係だが、自分にとってはよい友だった。▼孤立し、友人はいなかった。自分から友人を拒否し、語り合える人をあえて求めなかったと考えられる。

XVI 【塔】友人は多く、本音で語り合える者もいたが、一瞬にして失ってしまった。疑いが生じ、信頼関係が崩れたからだ。▼若いころは友人が少なかったが、時がたつにつれて友人が増え、親友にも恵まれたと考えられる。

XVII 【星】本音で語り合える親友がいたことが多く、引越してもいい、会うことができなくなった。しかし友情は続いた。▼友人というより、兄弟姉妹のような存在がいた。同じ境遇を悲しむ相手で、親友以上の関係だった。

XVIII 【巨】語り合える友人には恵まれたが、いつも不安にかられ、相手の気持ちを探っていた。表面的な友人関係といえる。▼友人には恵まれたが、自分から見つけた人物ではなく、血縁者や周囲から与えられた友人だった。

XIX 【太陽】明るく非常に元気な親友を持つていたと考えられる。相談役的な人物であり、本音でつき合える友人が多かった。▼同性の友人が多く、さっぱりとした関係が長く続いた。孤独に感じることはなかった。

XX 【審判】友人には恵まれ、親友もいたが、社会や周囲の押しつけによる友人関係と感じられ、やや不満があったと考えられる。▼友人には恵まれ、親友も多く得ることができたが、血縁者の手によって交際を断たれた経験も。

XXI 【世界】友人関係は平均的なものだった。ただ、なかなか会えない友人が多く、親密な間柄になるのに時間が必要だった。▼本人は、友人が多く親友にも恵まれていると思っていたが、他人からはなぜか孤独に見えた。

O 【愚者】友人は少なかったが、そのかわりに、動物・草・木・花・魚など、自然界の友が多く、孤独ではなかった。▼友人は多く、親友もいたが、それらは表面的なものであった。しかし、本人は孤独ではなかった。



*スペースが少ないために詳細な解説はできませんが、おおまかな傾向を読み取ってください。

I 【魔術師】非常に健康で、病氣知らずであったと考えられる。年をとってもさほど大きな病氣を患うこともなかった。▼健康であった。体には問題はなかった。ただ、季節的な症状として、喉のトラブルが見られた。

II 【文司長】とくに大きな健康上の問題はなかったが、精神的な面からくる不調が少しあったと考えられる。▼幼少期から心身ともに虚弱であったと考えられ、医者に頼っていた。老年期になっても変わらなかった。

III 【女帝】若いころから下半身に問題があり、トラブルを起こすことが多かった。老年期には落ちつき解決された。▼肉体的ものは健康で問題はなかったと考えられるが、生殖機能にトラブルが多く見られたようだ。

IV 【皇帝】いたって健康で肉体的なトラブルは少なかつた。年老いるまでの間、軽い病氣以外は経験したことがなかった。▼若いころは病氣も体のトラブルもなかった。老年期に足のケガなどの障害があった。

V 【法王】肉体的な問題は見られないが、精神面のトラブルが目立ち長い間、解決されなかった。時間が必要だった。▼精神面のトラブルが肉体に現れ、病弱な体をつくってしまった。長期にわたる問題となり、悩まされた。

VI 【悪人】悪かな行いが原因で、他者から病氣をつづされたと考えられる。繰り返されることも多く、悩まされた。▼とくに大きな問題は見られなかった。小さな病氣やケガなどはあったが、そのつど解決された。

VII 【戦車】病氣はほとんどなかったが、成年期ごろにケガをすることが多かった。なかにはキズ跡として残るほど大きなものも。▼血液が問題となる病氣やケガをした。どちらでも大きく、長い間のトラブルとなり、悩みも多かった。▼幼年期には病弱で、体力もなかつた。何のトラブルも見あたらなかつた。成長することに解決し、健康な体をつくりあげた。▼平均的な病氣やケガはあつたが、幼年期から丈夫で、年老いても健康だった。何のトラブルも見あたらなかつた。

VIII 【隠者】体質的な病氣をいくつも持ち、病弱であった。一生のほとんどを治療にかけたが、弱いままであった。▼内臓にトラブルが多かつたと考えられる。胃・腸、あるいは心臓などに問題をかかえ、長期間悩んでいた。

IX 【運命の輪】基本的には丈夫で健康なのだが、流行病と思われる病氣には多くかかった。体にトラブルは残らなかつた。▼若いころは問題なかつたが、年をとると関節などにトラブルが生じたと考えられる。老年期の悩み。

XI 【正義】肉体的には健康だったが、精神面のトラブルから不眠などの問題をかかえ、徐々に体をこわしたと考えられる。▼上半身がやや弱い傾向があつた。腰から頭部までの部分で、病氣やケガなどのトラブルに出合つた。

XII 【聖人】遺伝とされる病氣を持ち、幾度となくトラブルを起こした。しかし、中年よりあとに解決された。▼本来は健康上まったく問題はないのだが、精神面から、胃や腸などにトラブルを起こし、悩まされた。

XIII 【死神】出血という問題があつた。事故、あるいは疾患によるもので、長期にわたつてのトラブルとなつた。▼肉体的な障害を持つていた可能性がある。手が足がは断定できないが、そのどちらかだつた。

XIV 【節制】幼少期より呼吸器官に問題があつたと考えられる。センソクや言語障害なども予測することができると。▼健康ではあつたが、下半身が弱いと考えられる。腰から足先までの部分で、ケガなどのトラブルが多かつた。

XV 【悪魔】障害を持つていた可能性がある。病氣や遺伝、成長途上のケガなどが考えられ、生涯の問題となつた。▼治療がむずかしい病氣を持ち、肉体的なトラブルをかかえていた。幼少期より障害を持つていたとも考えられる。

XVI 【哲】他者との接納により、病的問題を起こした。年をとることに身体的なトラブルとなり、障害を残した可能性も。▼出生後からトラブルに出合い、かなり病弱であつたと考えられる。老年期に入り、徐々によくなつていった。

XVII 【星】幼少期に大きなトラブルがあり、病床にふせるほど弱かつた。年をとることに解消され、丈夫な体になつた。▼ごく平均的な病氣やケガの状態であつた。発熱というトラブルが目立つた。これも短時間で解消された。

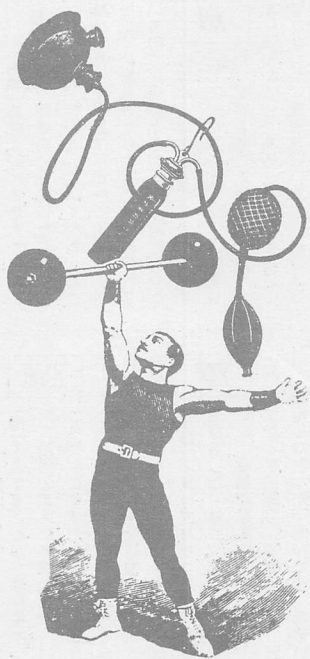
XVIII 【巨】肉体的なトラブルはなかつたが、精神面に問題があつた。長期にわたつて苦しめられた。肉体的には健康だつた。▼平均的な健康状態だつたが、皮膚に問題があり、幾度もひどくなつた。季節的な悩みで、夏場がひどい。

XIX 【太陽】虚弱で、とくに心臓にトラブルがあつた。幼少期より老年期になるまでの一生の問題として悩まされた。▼大きなトラブルやケガなどはないが、平均的な人々に比べればやや病弱気味であつたと思われる。

XX 【審判】基本的な問題はなかつた。ただ、成長途上にケガによる肉体的な障害を持つたと考えられる。ほかはやや不健康な程度。▼幼少期のころは病弱であつたが、青年期より解決に向かつた。老年期には元気になつた。

XXI 【世界】体の問題は何もなく、成長途上のケガ、軽い病氣程度であつた。基本的に健康な人物と考えられる。▼やはり病などによくかかり、トラブルも多かつた。ケガなどもあり、問題をかかえていたが、短期間の悩み。

O 【悪者】健康には問題がなく、心配も見あたらなかつた。ただ、老年期に頭部のトラブルに出合つたと考えられる。▼健康上の問題はとくに見られなかつたが、目にトラブルを持つていた。生活の障害となつた可能性もある。



恋愛・結婚

※前世でのあなたはどんな恋をしたのか、ここで占ってみてください。現世でも同じような恋をするかも。

I 「魔術師 数多くの異性と恋愛し、熱愛のすえに結婚したと考えられる。しかし、結婚後も多くの恋愛愛もあつたが、本当に愛した人とは結ばれず、思いを残して別の人と結婚した。

II 「女司祭長 多くの恋はあつたが、結婚にまで進められなかった。生涯、恋をすつたものと考えられる。▼恋愛は一度もなく、相手の行為を避けていたものと考えられる。結婚もなく、見合いも数少なく、断っていた。

III 「女帝 恋愛の数は平均的で、失恋も経験したが、結婚は見合ひでなされたと考えられる。結婚後、伴侶と恋に落ちた。▼恋愛の数は非常に多く、失恋も多かった。一応、結婚もしたがる、複数の家庭があつたと考えられる。

IV 「皇帝 一方的な恋愛が多く、結婚も強引に異性を承諾させたものと考えられる。結婚後のパートナーも複数存在した。▼強引な異性にまわりつかれ、結婚も無理強いで行われた。本人の意志による恋愛はなかった。

V 「法王 恋愛は多かつたが、相手の人物は高嶺の花で、語ることもままならなかつた。結婚もせず、生涯ひとりであった。▼純愛をしていたが、人に知られることはなかった。年が離れ、見守ることで自分は独身を通過した。

VI 「恋人 平均的な恋愛をし、失恋もしたと考えられる。幸運な結婚もし、とくに問題にはなかつたと考えられる。▼広い年齢層にわたつて交際し、多くの異性と恋をした。結婚することはなく、生涯を恋しつづけて終えた。

VII 「戦車 一方的で強引な恋愛が多く、束縛型のものであつた。結婚もしたが、幾度となく離婚し、再婚したと見られる。▼恋愛回数は非常に少ないが、経験がない。政治結婚であつた可能性が強く、愛情のないものだった。

VIII 「力 情熱的に愛した人物がいたが現実的な力をもつて奪わなければならなかつた。苦勞のすえに結婚した。▼恋愛経験は少なく、熱愛した人物が存在した。しかし、周囲の抑圧的行為により、結ばれることはなかつた。

IX 「隠者 熱い恋愛を経験し、手痛い失恋も経験した。結婚相手とも熱烈なものがあつた。結婚という事実は隠されていた。▼実りつながらず、結婚しなかつたが、できなかつたことを示す。恋愛経験が多いが生涯独身の身。

X 「運命の輪 平均的な恋愛で、結婚もした。相手との仲も温かく、充実したものであつたが、伴侶とは離れて暮らした。▼純愛した相手がいながら、2人を取り巻く環境が悪く、離れ離れとなつた。互いを思い、独身を通過した。

XI 「正義 恋愛感情はないのに結婚したと考えられる。政治結婚であり、自由にはならなかつた。伴侶との理解もない。▼恋愛するチャンスに恵まれない、結婚も政治的な自由のないものだったが、時間とともに愛情がめばえた。

XII 「吊るし人 自身は恋愛することはなかつたが、愛され、求婚する者は少なかつた。すべてを断り独身を通過した。▼恋愛の数は非常に多かつたが、結婚することはなかつた。恋人たちを一室に集め、愛をふりまいた。

XIII 「死神 純愛と呼べる恋人が存在したが、結婚前に死別した可能性が高い。時がたつてよく似た人物と結婚した。▼恋愛は平均的で失恋も経験した。結婚後もが世間では認められな

XIV 「節制 博愛主義者で、恋愛の対象としてはなく多くの人々を愛した。結婚することはなかつたが、愛に満ちた人生である。▼恋愛すること

XV 「悪魔 恋の数は非常に多く、我欲の強いものであつた。異性の恋人だけがなく、同性も存在した。結婚はしなかつた。▼恋愛というものでは

XVI 「塔 熱烈に愛し合つた存在がいた。信じ合つていたが社会の流れが2人を結ばせず、それぞれを他者と結婚させた。▼社会や身内の強制で結婚

XVII 「星 恋愛することはなく、結婚することもなかつた。愛され、ともに歩む者もいたが、本人は気づかず

XVIII 「巨 失恋することがかなり多かつた。苦勞のすえに結婚したが、いつも相手に悩まされ、不安にさせられたと考える。▼恋愛の対象となる人物はいたが、互いが素直になれず、友人

XIX 「太陽 恋愛は少なかつたが、熱愛を経験した。社会や周囲にも祝福され、幸福な結婚をした。初恋のよ

XX 「審判 親子ほど年の離れた恋人がいた。周囲の反対を押し切つて結婚した。理解されない恋だったが幸福に暮らした。▼恋人がいたが、2人とも政治結婚をさせられた。隠し結ばれない恋だが、生涯、相手も思つて

XXI 「世界 恋人は少なかつたが、結婚相手は多かつた。何回か結婚したが、いずれも家や社会のための犠牲だった。▼恋愛をし、結婚もしたが、何かの事情で離れ離れに暮らしたよ

O 「愚者 恋愛のみで生涯を送つた。あちらこちらに恋人をつくり、自由気ままであつた。失恋することが多かつた。▼多くの異性とつき合ひはあつたが、どれも恋愛となることはなく、中途半端だった。生涯、独身だった。



9 仕事

*解説は現代的な視点で書かれていますが、生まれた時代に合わせてイメージしてみてください。

I 〔魔術師〕手先を使う細かい作業内容の仕事を示す。黄金、洋服などの細工をはじめ、生活用具などの装飾や製作。▼手先を使い、言葉で人を楽しませる仕事を示す。奇術師をはじめ、集団に対しての娯楽的活動など。

II 〔女司察長〕頭脳を使い、記録を残す仕事を示す。記憶力に類する仕事が大で、情報の管理や集団の行動を記憶する活動など。▼体と頭脳を平均して使う仕事を示す。監視や情報の収集、集団のなかでの活動など。

III 〔女帝〕成長や育児に関する仕事を示す。乳幼児の育児をはじめ、栄養に気を配り、家族の健康を守る活動など。▼成長途上の者に対して、学問を施し、精神を導く仕事を示す。保育や集団の学習をとりしきる活動など。

IV 〔聖帝〕存在すること自体が仕事となったことを示す。王・女王をはじめ、国や社会を守る象徴的な活動など。▼目と耳を使用し、定期的な見回りや仕事であったことを示す。管理者をはじめ、家や土地を守る活動など。

V 〔法王〕神秘的な力を使用し、人々をとりしきるような仕事を示す。神官をはじめ、教祖、霊的な存在と人間をつなぐ活動など。▼人々を導いたり夢を与える仕事を示す。作家や画家をはじめ、不思議な話を語る活動など。

VI 〔悪人〕社会に出ることは少なく、家庭内を守る仕事であったことを示す。家事をはじめ、生活をききする活動など。▼家庭を守る人の手助けをする仕事を示す。時代によって異なるが、一般家庭を対象にした協力的活動など。

VII 〔戦車〕乗り物あるいは武器を使用し、人や国と戦う仕事を示す。警備的な仕事を示す。社会的な生命維持活動など。▼生活に必要な武器を使用し、動物と戦ったり生きもの育てる仕事を示す。狩人を始め、牧畜など。

VIII 〔刀〕頑強な肉体を武器とし、体力を必要とする仕事を示す。武道家をはじめ、肉体の力を利用する活動全般。▼戦う人々に使用されるものをつくり、与える仕事を示す。鍛冶屋をはじめ、命を奪う道具を生み出す活動など。

IX 〔隠者〕隠された不思議な力を使用し、霊的な世界をまとめる仕事を示す。占い師をはじめ、精神を操る活動など。▼人々の精神の奥に隠れたものを見つけたし、安定を与える仕事を示す。精神面での医療や心を見守る活動。

X 〔運命の輪〕多くの旅人から話を聞いて、心のゆとりを与える仕事を示す。語部をはじめ、遠い国の物語を伝える活動など。▼世界を旅し、国の特徴を人々に提供する仕事を示す。旅の助言や異国の品物を扱う活動など。

XI 〔正義〕社会的な立場に立ち、治安を守る仕事を示す。警官をはじめ、犯罪を防止する活動など。▼世界的な立場から、国を治め、治安を維持する仕事を示す。政治家や国のトップをはじめ、人々を正義の道に導く活動など。

XII 〔吊るし人〕犯罪を行った者に対し、刑を与える仕事を示す。警察官をはじめ、痛みや苦しみを与える活動など。▼国を守り命を守るために、教育を施す仕事を示す。教員をはじめ、将来をになう精神を育てる活動など。



XIII 〔死神〕命を左右し、守り、ときには奪う仕事を示す。医者をはじめ、呪術師など、肉体と生命を左右する活動。▼国を守るため、あるいは滅ぼすために、策を考える仕事を示す。軍事参謀をはじめ、戦いを左右する活動。

XIV 〔節制〕魂を安息に導き、残された者をなくさせる仕事を示す。聖職者をはじめ、命の大切さを説く活動全般。▼人と人との間を取り持ち、つながりをもたらす仕事を示す。仲介業をはじめ、人間の持つ縁を左右する活動全般。

XV 〔悪魔〕人間でないものにつかえたり、操作して、暗黒を守る裏の仕事を示す。魔術師をはじめとする闇の世界の活動など。▼悪しきものをはらい、人々を守る仕事を示す。魂を安息に導き、肉体を安定させる活動全般。

XVI 〔塔人〕人々の住む場所を研究し、つくりあげる計画の仕事を示す。設計家をはじめ、落ち着く場所を考える活動など。▼人々の住む場所をつくりあげ、生活に必要な道具を製作する仕事を示す。安住の場所をつくる活動など。

XVII 〔星〕多くの星々を使い、自然現象の解明や人の未来をうかがう仕事を示す。天文学者をはじめ、星を使った占いなどの活動。▼地上に埋もれてしまった過去の遺物を掘し、歴史などを研究する仕事を示す。

XVIII 〔月〕人々が美しきあろうとするために、飾るものを捜す仕事を示す。宝石の採掘業をはじめ、装飾のための活動全般。▼人々が地球とともに生きるための仕事を示す。自然保護をはじめ、人間と自然のバランスを保つ活動。

XIX 〔太陽〕多くの人が長寿であるために必要な、もろもろのことを考える仕事を示す。研究者をはじめ、進化のための活動。▼未来をになう者のために、この世界の記録を残す仕事を示す。作家をはじめ、保存の活動全般。

XX 〔審判〕多くの人が安全に生活していくための治安を考え、安定を与える仕事を示す。法律家をはじめ、バランスをとる活動。▼自分自身が食べるために、正統ではない仕事を示す。人が生きるために集めたものを奪う活動。

XXI 〔世界〕人間の生命を支える基本となる食物を確保する仕事を示す。農業をはじめ、食物生産のための活動。▼人々の生活に必要な製品を発明し、紹介する仕事を示す。研究者をはじめ、実用的な日常製品をつくる活動。

O 〔愚者〕多くの世界を見て記録し、人々に知らせる仕事を示す。冒険家をはじめ、未知の世界を知らせる活動。▼とくに仕事というのではなく、旅をすること自体が仕事であったことを示す。何事にもとらわれない自由人。

10 金銭・財産

*前世の金銭状況や財産を残せたかどうかなど、おおまかな傾向を知ることが出来ます。

I 「魔術師」金銭の出入りは上下動が激しく、使い方も荒かった。財産も生活のための貯えもなく、その日暮らしてであった。▼安定した収入があり貯えもあったが、財産として残すほどではなかった。普通の生活ができる程度。

II 「女司祭長」収入はしっかりしていたが、他人のために使い、残ることとはなかった。子孫のための財産にもならなかった。▼平均より高収入ではあったが、自分のために使い、貯えとなつたのはほんの少し。財産も少量。

III 「女帝」豊かで高収入だった。金銭に関する悩みとは無縁で、財産も子孫に残すことができるほど十分にあった。▼高収入で豊かではあったが、散財タイプで貯えにはならなかった。子孫に残すこともなく一代限りだった。

IV 「皇帝」収入は少なく豊かではなかったが、管理がよく貯えがあった。子孫に対しては財産を残すことができた。▼収入もよく豊かであった。管理もよく、貯えもあり、子孫に残すこともできたが、他者のために多く使った。

V 「法王」一定の収入があり貯えもあったが、年をとるまでに使いはたし、財産として子孫に残すことはなかった。▼金銭の出入りは安定し、貯えもあった。財産として子孫に残すこともできたが、生活は切りつめていた。

VI 「恋人」出入りは激しいが、貯えはあった。財産にはならず、人間関係において出費が多かったと考えられる。▼収入は少なかったが、よく貯えて蓄積はなかった。出費は少なくおさえ、子孫に財産を残すことはできた。

VII 「戦車」金銭の出入りは落ち着いていて貯えもあったが、老年期に散財し、子孫に残すことはできなかった。▼収入は多く、出費は少なかった。子孫に残せる財産もあり、豊かであった。一時に多くの財産を手に入れた。

VIII 「刀」金銭の出入りは安定していて貯えもあり、地道に財産をつくることができた。多くはなかったが、確実だった。▼収入は少なく出費は多かった。金銭の問題が多く、貯えにはならなかった。子孫に残す財産にも悩んだ。

IX 「隠者」収入はあったが、出費も多かった。金銭的には不安定であったが、貯えもあり、少ないものの財産にもなつた。▼収入は非常に少なくその日暮らしてであった。貯えもなく、子孫に財産を残せなかった。

X 「運命の輪」金銭の出入りは激しく、苦労とまではいえないが裕福でもなかった。貯えはほとんどなく、子孫にも残せなかった。▼収入・出費ともに平均的で、貯えもあった。子孫のための財産にも恵まれ、安定した生活。

XI 「正義労働による収入よりも、他者あるいは肉親の残した財産があったよふだった。しかし、一代で散財し残さなかった。▼金銭的には豊かであったが、出費が多く貯えがなかった。他者のために使用することが多かった。

XII 「吊るし人」金銭的な問題が多く、収入や貯え以上に出費があった。苦労がたえず、財産もなく子孫には債務が残った。▼金銭的な問題に見舞われることが多く、収入や貯えも少なかったが、他者からの協力で救われていた。



XIII 「死神」収入もなく、出費のみ多かった。貯えがいくらか見られたが、年をとるごとに使いはたし、最後には残らなかった。▼金銭の出入りは激しく、貯えもあったが、そのほとんどは他者から収奪したものであった。

XIV 「節制」収入は安定していて、出費も少なく貯えもあった。子孫に残したのも多く、他者の手助けをする余裕があった。▼金銭の出入りは落ち着いていた。貯えもあったが、身内あるいは近い者に貯えて使われた。

XV 「悪魔」一定の時期までは収入もあり、貯えもあったが、金銭問題をかかえ、収入もなくなり財産も奪われてしまった。▼安定した収入があったが、入るたびに使いはたし、貯えにはならなかった。子孫にも残さなかった。

XVI 「塔」金銭の出入りは激しく、他者をも巻き込むほどであった。貯えもなく、子孫に残したのは債務だけだった。▼収入は少なく出費は多かったが、地道に貯えをつくり、老年には財産もでき、徐々に豊かになった。

XVII 「罫」一定の時期まで収入も少なく、金銭問題をかかえていたが、他者の協力を得て解決した。最後には貯えもできた。▼収入は安定していたが、出費が多く苦労があった。他者の協力も得られたが、子孫に残すものはなかった。

XVIII 「巨」収入も貯えもあり、豊かであった。しかしそれに満足することがなく、いつも不安で落ち着かなかった。▼収入もあり、貯えもあった。しかし、金銭問題をかかえ、他者を犠牲にしておきながらと考えられる。

XIX 「太陽」収入は多く安定し、貯えもあった。豊かな生活のなかで、他者を救うために出費し、財産も社会に残した。▼収入もなく、貯えもなかったが、他者あるいは肉親の財産に恵まれ、豊かであった。子孫以外に残した。

XX 「審判」金銭の出入りは安定していた。一定の時期までは平均的だったが、周囲の協力により老年期には豊かになった。▼金銭問題をかかえていたが、地道な努力で解決し、中年から安定した。子孫には残さなかった。

XXI 「世界」収入もなく出費もない。貯えもなかったが、社会的協力を得て安定した。老年期には少ないが財産もできた。▼金銭の出入りは安定していたが、貯えにはならなかった。人のために使い、残すほどではなかった。

O 「愚者」地道に貯えをつくり、収入もあったが、財産になると他者に奪われることが多かった。子孫にも残せなかった。▼収入もなく貯えもなかった。着の身に着のまま、その日暮らしたが、苦労とは感じなかった。

11 死

*前世でのあなたの寿命はどうだったのか。また、カードが暗示する死因についても解説しておきました。

I 【魔術師】当時の年齢では平均的な寿命だった。原因は年老いたということだが、内臓を痛めたことで死期を早めた。▼寿命としては長生きであった。死因は口から喉にかけての病気がケガであると考えられる。

II 【女司祭長】平均的かやや長めの寿命であったと考えられる。死因は年老いたということ、肉体の限界を迎えている。▼実に短命であったと考えられる。原因は精神的な問題が体を弱くし、病気をもたらした可能性が高い。

III 【女帝】平均的な寿命であったと考えられる。死因は下腹部の病気、あるいは事故によるケガであったと考えられる。▼長生きであった可能性が高い。死因は年老いたということ。寿命をまっとうし、肉体の限界であった。

IV 【皇帝】寿命としては長いものであった。死因は精神的な問題が、病気になる意図的な死に向かわせたと思われる。▼実に短命で、原因も束縛が幽閉による、精神的、肉体的苦痛によるものと考えられる。死による解放。

V 【女王】寿命としてはかなり長命であったと考えられる。死因は肉体の限界を迎えたこと。▼平均的な寿命であったと考えられる。死因としては、精神的か霊的な問題が、病気あるいは事故をもたらしたことになる。

VI 【恋人】平均的な寿命であったと考えられる。死因は年老いたということだが、精神的な心配事が死期を早めた。▼実に短命で、死因も他者による可能性が高い。性的問題で、他者からの伝染病と考えられる。

VII 【戦士】実に短命で、原因は事故によるケガであったと考えられる。平和な場所での事故ではなく、混乱のなかでの事故。▼周囲からは短命と惜しまれて死を迎えた。原因は社会的騒動のあった土地での病気と考えられる。

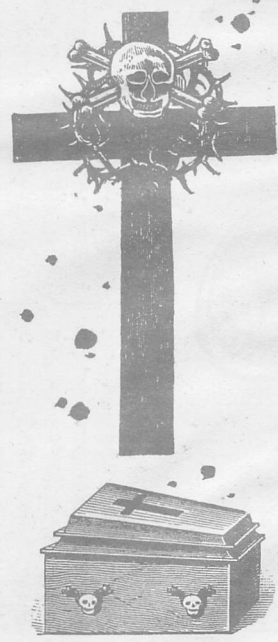
VIII 【力】長命であったと考えられるが、死に近い状態になったのは若いころからと見られる。脳死か仮死状態で年老いた特殊なケース。▼平均的かやや長命と考えられる。死因は、その時代に流行したはやり病であったようだ。

IX 【隠者】平均的な寿命であったと考えられる。死因は不明で、当時では説明されることのない病気によるもの。▼長命であったと考えられる。死因は過去に患った病気、あるいはケガにあったと見ることができる。

X 【運命の輪】短命であったと考えられる。死因はその時代に流行したはやり病。非常に苦しい長期であった。▼その時代としては長命であったと考えられる。死因は内臓の病気、あるいは脳の疾患という可能性もある。

XI 【正義】平均的な寿命であったと考えられる。死因は働きすぎによる、過労死の可能性が高い。社会的な強制労働も。▼長命であったと考えられる平均以上の寿命だった。死因は肉体的限界を迎えたこと。精神的にも限界だった。

XII 【母のしん】平均的な寿命であったと考えられる。死因は病気が事故などのケガによる、出血量多死であると思われる。▼平均的な寿命であったと考えられ、死因は他殺であったと見られる。第三者の落ち度により巻き込まれた。



XIII 【死神】短命であったと考えられ、死因は他者による殺害の可能性が高い。特殊な儀式で犠牲にさせられた可能性も。▼短命であったと考えられる。死因は社会あるいは周囲の問題から、自ら命を断たなければならなかった。

XIV 【節制】平均的な寿命であった。死因は年老いたということ、肉体の限界を迎えた。現時代から見ると短命である。▼その時代では長命に属するほうであった。死因は体内に異物が入り込んだと考えられ、毒物投与なども。

XV 【悪魔】短命であったと考えられ、社会や周囲への悪しき行いが、制裁を下されたと思われる。自身の行為が原因。▼平均的な寿命ではあったが、死因は霊的、精神的なものと考えられる。神経症や憑霊の可能性も。

XVI 【塔】短命であったと考えられるが、周囲からはそれでもよく生きたと感じられた。死因は原因不明の難病であった。▼長命であったと考えられる。死因は老化と病気によるものだが、孤独のうちにさみしく死を迎えた。

XVII 【星】長命であったと考えられる。死因は肉体の老化で、寿命をまっとうした。落ち着いた静かな死。▼平均よりやや短命であったと考えられる。死因は内臓の病気に関したものが命を短くし、死期を早めたと思われる。

XVIII 【巨】短命であったと考えられる。死因は血液に関したもので、出血が遺伝による病気と考えられ、命を失った。▼平均的な寿命であったと考えられる。死因は下腹部にもたらされた病気、あるいはケガであると思われる。

XIX 【大隠】長命であったと考えられる。死因は年老いたということ、周囲に惜しまれながら長期を迎えている。▼平均的な寿命だが、死因は心臓にあると見られ、病気が、突然の出来事として死を迎えたと考えられる。

XX 【審判】社会的な事件、または魔術や宗教など、特別な状態で自ら命を捧げたと考えられる。実に短命であった。▼平均的だが、やや短命といえる。問題をかかえ、精神的な悩みから自分の命を意図的に断つたと見られる。

XXI 【世界】長命であったと考えられる。不幸なことに死因は人災による事故。おおげしい人々とともに死を迎えている。▼短命でない自然災害、多くの人々とともに死を迎えている。

O 【愚者】短命であったと考えられ、死因は事故に巻き込まれたこと。多くの人々とともに死を迎えている。▼短命か長命かは断定できないが、死因としては動物の襲撃が考えられる。生活の営みのための戦いで失っている。

12 カルマ

*前世で生じたカルマは、次の生で浄化しなければなりません。あなたの前世では、どのようなカルマが生じたのでしょうか？

Ⅰ 「魔術師」先走った行いをしたり、素直すぎたときに失敗を招いたことを暗示。周囲にふりまわされ、人にだまされたことがカルマとなり、よく考えて状況を把握し、自分の意見をまとめ、慎重に進むことが課題となった。

Ⅱ 「女司祭長」何事にも、素直で正直に対応したときに失敗を招いたことを暗示。問題や人にとらわれすぎたり、正直な行動を利用してしまっただことがカルマとなり、臨機応変に状況に対応し、間合いをとることが課題。

Ⅲ 「女帝」冷静に周囲を見つめ、必要なとき以外に口を開かなかったところが、ときに失敗を招いたことを暗示。一見、冷たいと感じさせる落ち着きが、周囲の理解を失わせてカルマとなり、コミュニケーションが課題となった。

▼何事にも厳しく、完璧主義的な態度や行動をとったことが、ときに失敗を招いたことを暗示。周囲との協調性をなくし、自分の問題や周囲の人間に執着したことがカルマとなり、状況に合わせた柔軟性を養うことが課題となった。

Ⅳ 「皇帝」頑固に自分の意見を主張し、しきたりや伝統を軽視したときに、失敗を招いたことを暗示。周囲の意見を聞かず、独断と偏見で物事を進めたことがカルマとなり、焦らずのんびりした精神を養うことが課題となった。

Ⅴ 「法王」物事を考え悩むことをせず、自己の快楽のみを求めたときに失敗を招いたことを暗示。周囲や状況を考えず、自分のペースのみで物事を処理したことがカルマとなり、まじめにコツコツと歩むことが課題となった。

▼多くを悩み、ひたすら考え込んだ、自分の世界に陥ったときに失敗を招いたことを暗示。集団の問題でも勝手気ままに取り組み、協力をこぼしたことがカルマとなり、集団生活を学び、バランスを知ることが課題となった。

Ⅵ 「恋人」人によさすぎず、身体的になりすぎて自己を考えなかったとき、失敗を招いたことを暗示。集団に対して個人に対しても、自分をおろそかにしたことがカルマとなり、成長を学び、安定することが課題となった。

Ⅶ 「戦車」物事に執着を持ち、強引に行動したときに失敗を招いたことを暗示。気短に状況を判断し、せっかちに行おうとして周囲を巻き込んだことがカルマとなり、駆け引きを学び、強引さをなくすことが課題となった。

Ⅷ 「力」強引で頑固、かつ細かいことに口うるさくなったとき、失敗を招いたことを暗示。個人でも集団でも妥協を許さず、細かい面にこだわったことがカルマとなり、余裕を持ち、寛大な精神を養うことが課題となった。

▼細かいことを気にせず、よく考えもしないで行動したときに失敗を招いたことを暗示。むら気が激しく、集団のなかでもい加減な行動をしたことがカルマとなり、几帳面に考え、研究心や執着心を持つことが課題となった。

Ⅸ 「障害者」楽天的な活動にぎやかになつていき合いが激しくなったときに失敗を招いたことを暗示。享乐的な物事に執着し、周囲を巻き込んだり悩ませたことがカルマとなり、安定した精神を学ぶことが課題となった。

Ⅹ 「運命の輪」うるさいほどのおしゃべりや、周囲の状況を無視して活動したときに失敗を招いたことを暗示。欲求にまかせて騒ぎすぎたり周囲を巻き込んだことがカルマとなり、冷静沈着に行動することが課題となった。

Ⅺ 「正義」何事に対しても、ストレートかつ正直に対応したときに失敗を招いたことを暗示。おとなしく周囲との協調のみを心がけ、流れに身をまかせたことがカルマとなり、強い意志を表に出すことが課題となった。

▼世話好きで人の面倒をよくみ、おせっかいをやいたときに失敗を招いたことを暗示。手にあるほど人間関係にもかわらず、まじめに対応したことがカルマとなり、自他の区別をはっきりさせることが課題となった。





XII

「吊るし」人自身の都合を第一に考え、見栄っぱりで無口になつたときに失敗を招いたことを暗示。集団や社会との協調性を無視し、自身自身に甘い面がカルマとなり、集団のなかでの忍耐力を養ふことが課題となった。

XIII

「死神」神経質で細かひ面に執着し、自分に関しては隠し事をしたときに失敗を招いたことを暗示。自分は優柔不断で、相手には決断力を求めることがカルマとなり、何事に関しても決断を下し、学ぶことが課題となった。

XIV

「節制」人に寛大で物事をよく考えず、涙もろくなつたときに失敗を招いたことを暗示。大きな問題で行き詰まつたときに泣くことで周囲の気を引いたことがカルマとなり、悲しみを体験し、忍耐を学ぶことが課題となった。

▼せっかちななり、自分勝手な行動を始めたときに失敗を招いたことを暗示。周囲との協調性に欠け、落ち着きがなく問題に集中できない面がカルマとなり、多くの問題をかかえることで、忍耐と集中を学ぶことが課題となった。

XV

「悪魔」執着心が強く、自己の快楽を求めて周囲との協調性をなくしたときに失敗を招いたことを暗示。集団生活を嫌い、ねたみやマイナス思考を持ったことがカルマとなり、孤独を経験し温かさを学ぶことが課題となった。

XVI

「塔」おおざっぱで飽きっぽい、口うるさくせっかちな面が失敗を招いたことを暗示。性急に周囲や社会を引きまわし、飽きると途中でやめてしまふ態度がカルマとなり、自分以外の問題を考えることが課題となった。

XVII

「星」心配性で引っ込み思案の性格が、ときに失敗を招いたことを暗示。必要なときにも口を開くことがなく、集団生活でも自己主張をしなかつたことがカルマとなり、責任を持ち、向上心を養ふことが課題となった。

▼何事にも中途半端で落ち着きがなく、不安定な生活態度が失敗を招いたことを暗示。集団生活を乱したときについたうそや、人をだますなどの行為がカルマとなり、だまされることを経験し、人の心を学ぶことが課題となった。

XVIII

「巨」無口で、必要となるまで動こうとしなかつた腰の重さが、ときに失敗を招いたことを暗示。集団生活をこぼんで進行を遅らせたり、時間をかけすぎるなどの行動がカルマとなり、着実な歩みを学ぶことが課題となった。

XIX

「天」華やかでおおらか、人にも集団にも無防備に対応したことが、ときに失敗を招いたことを暗示。

▼あつからんとした言葉が逆に相手を傷つけ、カルマとなり、言葉に気を使うような経験をすることが課題となった。

▼世話好きな面はいいのだが、それが度を超して相手の不快をかい、ときに失敗を招いたことを暗示。おせっかいで口うるさく、リーダー的活動が周囲を束縛してカルマとなり、自由のきかない状況を経験し、自由を学ぶことが課題となった。

XX

「審判」自己中心的なつき合いによって過保護にされ、それに甘んじたときに失敗を招いたことを暗示。他者にやさしくされることを当然と思い、自分を大切にしすぎる面がカルマとなり、厳しい人間関係の学習が課題となった。

▼無口で集団生活を嫌いながら、陰でうわさをするなどの行動が、ときに失敗を招いたことを暗示。真実のはっきりしないうわさを語ったり、神経質な面がカルマとなり、あらぬ疑いをかけられる状況下で、真実を捜すことが課題となった。

XXI

「世界」情報通で新しいことには目がなく、せっかちで見栄っぱりな面がときに失敗を招いたことを暗示。ひとりよがりの愛情や集団への強い指導がカルマとなり、本当の愛情や指導力とは何かを学ぶことが課題となった。

▼前向きで向上心が強く、自分自身に厳しくなりすぎたときに失敗を招いたことを暗示。集団の中で必要以上の自分への厳しさがカルマとなり、他者に厳しくされ、自分を開放する方法を見つけることが課題となった。

XXII

「悪者」ひょうきんで冗談好き、楽天的な面が、ときに失敗を招いたことを暗示。集団を楽しませ、自分自身が我慢することで、本当の自分を隠した行動がカルマとなり、自分の意志をはっきりさせることが課題となった。

▼おおざっぱでせっかち、自由気ままに細かいことは悩まない面が、ときに失敗を招いたことを暗示。周囲との協調性はあるが、長続きせず、後始末を頼むような行動がカルマとなり、几帳面な状況処理を学ぶことが課題となった。

0

「悪者」ひょうきんで冗談好き、楽天的な面が、ときに失敗を招いたことを暗示。集団を楽しませ、自分自身が我慢することで、本当の自分を隠した行動がカルマとなり、自分の意志をはっきりさせることが課題となった。

▼おおざっぱでせっかち、自由気ままに細かいことは悩まない面が、ときに失敗を招いたことを暗示。周囲との協調性はあるが、長続きせず、後始末を頼むような行動がカルマとなり、几帳面な状況処理を学ぶことが課題となった。